

廃棄物対策審議会議事録

会議名	平成 30 年度第 2 回廃棄物対策審議会
日 時	平成 30 年 7 月 11 日（水） 13 時 30 分～15 時 30 分
場 所	リサイクルプラザ・プラザ館 2 階 研修室 3
出席委員	恵良委員、高橋委員、中村委員、春田委員、樋口委員、三木委員、鈴木委員、藤田委員、橋本委員
欠席委員	稲葉委員、龍田委員、秋山委員、村越委員
会長代行	恵良委員
事務局	田中環境部長、染谷環境部次長、糸井クリーンセンター所長、佐々木副所長、金子副所長、村山副所長、横尾管理計画係長、石田収集・リサイクル係長、宮崎管理計画係副主査、片浦管理計画係副主査、横井管理計画係主任主事、水落管理計画係事務員
コンサルタント	株式会社環境技術研究所 石川管理技術者、栞原主任研究員、阪根技師
傍聴人	0 人
議 題	1 答申（案）について 2 その他
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度「第 2 回流山市廃棄物対策審議会」次第 ・席次表 ・資料 1 答申（案） ・資料 2 審議経過 ・資料 3 審議会議事録（平成 30 年 4 月 25 日開催） ・参考資料 1 流山市一般廃棄物処理基本計画（素案）
議事要旨	別紙のとおり

議事要旨

<ul style="list-style-type: none"> ・開会（13時30分） ・会長代行あいさつ ・議題 <ol style="list-style-type: none"> 1 答申（案）について 2 その他 ・閉会（15時20分） 	
金子副所長	<p>定刻となりましたので、ただいまから平成30年度「第2回流山市廃棄物対策審議会」を開会いたします。</p> <p>本日の会議ですが、稲葉会長におかれましては仕事の関係で海外出張されておりますので、前回は引き続き、恵良副会長に会長代行をお願いしております。また、本日の審議会は傍聴人の届け出がないことを、ご報告します。今回もコンサルタントに出席をいただいております。それでは、まず初めに恵良会長代行からご挨拶をお願い申し上げます。</p>
恵良会長代行	～挨拶～
金子副所長	<p>～配付資料確認～</p> <p>それでは、これより本日の議事に入ります。ここからの進行は恵良会長代行にお願いします。</p>
恵良会長代行	<p>本日の出席委員は9名です。</p> <p>従いまして、「流山市廃棄物の減量及び適正処理等に関する規則」第4条第2項の規定に基づき、定足数に達しておりますので、会議が成立していることをご報告申し上げます。</p> <p>それでは、議事に入る前に平成29年度の速報値から算出した新たな目標値について、事務局より説明願います。</p>
糸井所長	<p>数値目標についてですが、前回までの数値は平成28年度までのごみ発生量等の実績値を基に算出していましたが、この度、平成29年度の暫定値が決定したため、手法はそのまま数値を更新して計算した結果、目標値に変更が生じました。平成28年度から29年度は人口の増加等もありまして、ごみの総量が増えたということで、それを再度検証した結果、1人1日当たりのごみ発生量は前回711gとお示ししましたが、今回は768gとなっております。1人1日当たりの家庭系ごみ発生量は前回351gでしたが、372gとなりました。資源化率は前回25.1%でしたが、今回は21%となっております。やはり人口が毎年4,000人から5,000人増えておりまして、ごみの量も前年度に比べると増加しております。その関係でどうしても増えてしまっております。</p> <p>なお、基本方針である「人口が増加しても、ごみ発生量は変えない」は、変更ありません。</p>
恵良会長代行	何かご質問があれば、お願いします。
春田委員	<p>質問なのですが、現状の29年度の数値を基本年として、上がったか、下がったか見ていこうという話なのでしょうか。それには反対です。29年度の数値は、イレギュラーな数値です。確かに28年度に比べまして一様に増えていきます。増えている理由は色々あるかと思いますが、28年度と比べて、29年度の数値は異常値です。ですからその異常値をベースに35年度と40年度を見据えるというのは、いかがかなという感じがします。</p>

田中部長	それは人口も含めた考え方でしょうか。人口が5,000人増えています。そういったこともありますので、我々としては、さほど異常値とは考えていません。
春田委員	そこは議論してほしいのです。私は異常値だと思っているので、異常値を基本年にするのはどうかなという話です。
田中部長	これは我々の方でも数値を出す際に検討していますので、この数値が異常値であるということを裏付けるようなことは考えていません。
春田委員	人口が増えると、1人あたりは減るはずですが、人口の伸び率以上に発生量が増えているので、この数値が高くなっているということです。私が言いたいのは、29年度だけではなくて、28年、27年度を含めて形で、29年度が異常値だということを誤認識いただきたいと思います。
村山副所長	今の春田委員のご発言についてなのですが、こちらの方で把握している平成27年度からの流山市内で発生したごみの発生量を申し上げます。27年度が57,881.39t、28年度が56,214.95t、29年度が58,272.06tという数値になっております。春田委員が仰るのは、分母が増えているので、1人あたりのごみ発生量は減っているはずだというようなご発言ですが、分子も今申し上げたとおりに変動しております。ですので、分子が増えて、分母も増えているということであれば、1人あたりのごみの発生量は、前年に比べて極端に減るというようなことは、数字上は申し上げることはできないのではないかと考えております。ちなみに1人あたりのごみの発生量で申し上げますと、27年度が890g、28年度が846g、29年度が853gという風になっております。
春田委員	分母と分子の関係で言いますと、分母要するに人口が増えている、それは分かります。でも分子が人口以上に増えてれば、当然1人あたりが増えるわけです。私が言っているのは、ごみの発生量が異常に増えているということです。異常に増えているから1人あたりが増えているのです。
糸井所長	お手元の計画の資料P10をお開きください。表2-3の1人1日当たりのごみの発生量なのですが、逆に28年度の数値が異常値だったと見ることもできます。28年度が少ない理由は検証しているのですが、よく分かっておりません。この度29年度のデータが出たものですから、そのデータを基に計算した数値目標に置き換えさせていただいたということです。
春田委員	ごみの発生量が今までは56,000tレベルできたものが29年は58,000tになっている。これが多いということを言っているのです。
高橋委員	単年度でみると多少の増減はあると思います。ですから、1人あたりのごみ発生量で見ると、減り方の傾向として、28年度の方が異常に減っていると感じます。そういう意味では29年度は春田委員が仰るような異常値だとは私は思えません。単年度ごとにこれは異常値だ、異常値でないという議論をしていると、まとまりがつかなくなると思います。
三木委員	平成15年から20年にかけては、56,000～57,000tで推移していて、その後もごみ発生量としては57,000tぐらいでキープしていましたので、58,000tだと少し多いと感じます。人口が増えてもごみは増やさないという根拠からいくと、56,000tちょっと辺りを基準にするのが、やっぱり目標であって、今ここでわずかでも上げて、大きくしていくと、目標として掲げていることが違うのではないかと思います。1人あたりに対しても、平成15年からは、すごく減っているのですが、そもそもの目標として、人口が増えても変わらないというの

	<p>を続けるのであれば、ここで 58,000t に上げるのはどうなのかなという気がします。</p>
高橋委員	<p>確かに変動はありますけれども、異常値と声高に言うほどの数値なのかなというふうには私は感じます。1人1日当たりのごみ発生量で見ますと、平成28年度の方が減り過ぎているというふうに思います。単年度ごとに見ると値のこぼこがある中で、どこを基準にするのがという設定が、直近の値を使用するというのであれば、私はそんなにずれてはいないのではないかと思います。</p>
三木委員	<p>市が言っているのは「人口が増えても変わらない」ということですが、基準をゆるくしているように見えます。</p>
田中部長	<p>58,000t というのは実績です。実績をものさしにして、それ以上ごみを増やさないということです。</p>
三木委員	<p>人口は増えていて、この先も当分の間は増え続けると思われるので、そもそも、人口が増えても変わらないという目標自体が実際は厳しいことではあると思います。それで、ここで、ものさしを緩めておきましょう、というふうに私には聞こえてしまいます。</p>
田中部長	<p>かなり厳しい目標設定をしていると思います。平成29年度の実績値を用いて計算した場合でも、現状と比べると、1人1日当たりのごみ発生量を100g近く減らさなければいけない。29年度の実績を用いないと、さきほど言ったとおり、1人1日当たりのごみ発生量の目標は711gです。かなりこれは難しいと思います。あくまでも29年度の実績値に基づいて、その数値を維持していくということです。</p>
糸井所長	<p>ごみ発生量の将来予測の表をご覧ください。2028年度の将来予測は平成29年度よりも少ない57,488tとなっており、これを目指していくということです。この場合1人1日当たりの発生量を計算すると768gになるということです。平成29年度と比較すると人口が18,000人ぐらい増える予想ですが、それでもごみ発生量は増やさないということです。</p>
春田委員	<p>実績値をどこかで区切らなければいけないというのは分かります。年度によってばらつきがあるのも分かります。だけれども29年度の数字は、私は異常値だと思っていて、それをベースに減りましたという報告では、どうなのかなと思います。ここにいる方々は議論をしているから分かると思うのですが、委員が代わったり、市民から見れば、「基準年より下がっているからいいね」と、そこしか評価されないというのはおかしいかなと。それが心配です。では、どうしたらいいかというのは、答えが無いのですが。</p>
コンサルタント	<p>異常値というのは統計的に解析できるのですが、この数値から見ると、29年度は特に異常値にはならないと思います。</p>
恵良会長代行	<p>一番大切なのは、29年度の実績が異常値か否かではなく、2028年度の計画目標値がこれで妥当かということだと思いますので、皆様のご意見を聞かせていただきたいと思います。</p> <p>私は先ほど言ったように、1人1日当たりのごみ発生量が768gというのは、結構厳しい数字だと思います。皆様方はいかがでしょうか。</p>
鈴木委員	<p>将来予測を見ると、家庭系ごみはかなり減っているのですが、事業系ごみは事業者が増えているので、増えている。事業系ごみも減らすような方向でいかないと、大変かなと思います。</p>

糸井所長	物流基地なども出来てきていますし、おたかの森駅周辺も色々な商業施設が立地してきております。事業所数が増えれば、事業系ごみも増えてきます。そこで、今回の計画では、「1人1日当たりの家庭系ごみ発生量」という、家庭系ごみだけの指標を設けました。また、引き続き、多量排出事業者には計画を提出していただくなどして、働きかけを行っていきます。
春田委員	目標値は今日決定しなければいけないのでしょうか。
糸井所長	今ご説明させていただいたのは、直近の29年度の実績値を用いて計算した結果であり、計算の方法は変えておりませんので、本日、決めていただきたいと考えております。
鈴木委員	新しい29年度のデータを用いた方が私はより正確だと思います。
橋本委員	28年度が少なかった理由を検証していただいて、それを今後に生かせるようにできればいいのではないかと思います。
糸井所長	今、橋本委員から、お話があったのですが、家庭系、事業系の別、ごみの分別区分ごとの重量は集計できますので、検証したいと思います。
三木委員	先ほど橋本委員が仰ったように、28年度がなぜ減ったのかが分からなければ、この先の方策も立てにくいと思います。29年度はちょっと上がったけどいいや、次もちょっと上がったけどいいや、みたいになってしまわないかというのが気になります。
村山副所長	今、議論が中間目標、計画目標の数値を達成できるかどうかという着眼点で進んでいるように思います。あくまでこの数値というのは、目安ということで捉えていただいて、我々は目標達成のために、個別施策を着実に、粛々と実行していくというような意気込みの計画書を作りたいと考えています。
春田委員	今仰った精神をぜひ盛り込んでいただきたい。今仰ったように、個別の施策でそれぞれ努力しますというところをやっぱりここで打ち出していきたい。今のご意見に賛成です。
恵良会長代行	それでは、答申（案）について、ご説明をお願いします。
横尾係長	～資料1 答申（案）について説明～
恵良会長代行	答申（案）について、何かご意見はありますか。
鈴木委員	留意事項2つめの「検討」という言葉について、「考える」などのように直していただきたいです。これは私の個人的な意見なので、皆さんが「検討」のままでもいいということでしたら、結構なのですが。
三木委員	言葉もですが、焼却以外の処理方法については、具体策についての意見が出ていないと思うので、もっと踏み込んだ言葉が必要かなと思います。プラスチック類の分別や、生ごみの重量が多いこと、その対応についても市民に徹底しているとは思えません。もう一つ、紙ごみが結構混入しているとお聞きしたので、紙ごみのリサイクルなどをもっと謳ってもいいのかなという気がします。
高橋委員	「考える」も「検討する」も意味は同じではないでしょうか。 問題なのは、人口は増えてもごみの総量は増やさないという大前提を維持するためには、現在のごみの排出レベルで見ますと2割ぐらい量を減らさないと達成にならないわけです。2割減らすのが今の生活のレベルで妥当かどうかを議論する方が、私は正しい方向だと思います。例えば、生ごみ減らせばできるとか、紙類の排出量を減らせばできるとか、そういうことがあればいいと思うのですが、そのようなものがなくて、ただ、1割2割減らす、基準年はどこに

	<p>するという話を話合っても、それは机上の空論になってしまうのではないかと思います。要は、今の生活レベルで2割落としても大丈夫か、それができるかどうかです。そのような視点に立って考えれば、「検討する」も「考える」も同じことだと思います。</p>
樋口委員	<p>4番を読んだときに、山形のレインボープランのような感じで、市全体で生ごみを堆肥化するようなことを想像しました。今朝、カラスがゴミをつついてのを見たら、白米が捨てられていました。このようなものを肥料にすることはできないのでしょうか。</p>
恵良会長代行	<p>(山形の)長井のレインボープランを進めた方に流山に来ていただいて、お話を聞いたことがあります。レインボープランがすごいのは、生ごみの問題から町全体を変えるというプランで、それぐらいの意識改革が必要です。私は生ごみの堆肥化をここで一番しつこく言ってきた人間ですが、だからこそ難しいのを一番よく分かっている人間でもあります。話がずれてしまいました。</p>
三木委員	<p>公園の花壇など作るのに住民に委託していますよね。ああいった中でプラスチックごみ処理をするとか、やろうと思えばいくらでも、少しずつは方法があると思います。</p>
高橋委員	<p>あまり極端に立派なプランを導入することではなくて、我々の日常の生活のレベルで10%、20%の排出量の削減が可能であれば、それはいいと思います。</p>
村山副所長	<p>今ご審議いただいている答申の裏面の留意事項1～6について、それぞれ、個別施策にどのように反映されているのかを補足説明させていただきます。 ～参考資料1 流山市一般廃棄物処理基本計画（素案）を用いて説明～</p>
	<p>～鈴木委員が所用のため退席～</p>
恵良会長代行	<p>現在、生ごみ処理機を設置している学校は何校でしょうか。設置校数を増やすことは考えていないのでしょうか。</p>
石田係長	<p>大型の生ごみ処理機を学校に設置してからだいぶ経ち、経年劣化も起きています。栄養士さんの会合に参加させていただいた際には、栄養士さんも食品ロスを考えて、残さないように計画を立ており、今後は大型生ごみ処理機ではなく、飼料化などを検討してほしいというご意見も出ていますので、大型の生ごみ処理機については縮小も考えざるを得ない状況になっています。</p>
恵良会長代行	<p>飼料にして有効利用を図る、そういう方向を進めているということですね。そのことも基本計画に入れてはいかがでしょうか。</p>
田中部長	<p>参考資料1 流山市一般廃棄物処理基本計画（素案）23ページの個別施策19に入れております。</p>
村山副所長	<p>私の補足説明が論点を外すような結果になっているようですので、今日、審議いただく内容について、改めてご説明させていただきます。 本日は個別施策についてご審議いただくのではなくて、お示ししている答申案の内容についてご審議いただくというのが本日の審議の目的となっております。個別施策の内容については、これまでの審議会でも十分揉んでいただいているという認識です。</p>
春田委員	<p>答申案については、非常に立派な内容で私も賛成します。ただ、答申案を具体化する個別施策が物足りないような気がします。個別施策についての議論ができる機会はありますでしょうか。</p>

糸井所長	過去5回にわたり段階を踏んで審議してきました。最終調整になって、もう一回スタートに戻るとなると、時間も限られておりますので、ご理解いただければと思います。
春田委員	答申案は非常に立派です。答申の留意事項1から6番はぜひ審議委員としても、答申してほしいと思っているのですが、ここに書かれている答申内容を具体化する先として、この基本計画素案の内容でいいのでしょうか。
糸井所長	個別施策については、春田委員にもご意見をいただきながら、何回も議論させていただきました。
春田委員	私の意志が反映されていない箇所がありますので、細かい点は個別に修正をお願いしますつもりです。
田中部長	それは今言っただけですか。
春田委員	参考資料1 流山市一般廃棄物処理基本計画（素案）27 ページ、個別施策31のイ)です。i)として、「効率の良い運転管理を図り、発電量（バイオマス発電）をより多くすることで、民間電力会社の電力（化石燃料）を削減するよう努めます。」この表現はおかしくないでしょうか。
横井主任主事	すみません。これは誤植です。i)の「発電量（バイオマス発電）をより多くすることで」は削除したつもりでしたが、残っておりますので、これは削除します。
春田委員	それでしたら結構です。
高橋委員	答申の留意事項を増やすことはできますでしょうか。29 ページを見ると、緩やかですが、事業系ごみはずっと増加しています。個別施策の中に、事業系ごみについて指導を行うというような文言があったと思います。それを生かした形で留意事項の中に一つ、新しく加えられないでしょうか。
糸井所長	事業系ごみに関する個別施策でいうと、21 ページの個別施策6「事業系ごみの減量」、23 ページの個別施策17「事業者責任によるリサイクルの促進」があり、重点施策となっておりますので、高橋委員の仰るとおり、追加したいと思います。
恵良会長代行	留意事項の中に、事業系ごみの減量を入れることでよろしいでしょうか。
糸井所長	留意事項の順番は検討しますが、入れたいと思います。
三木委員	8 ページ表 2-2 の「燃やすごみ」の「主な排出品目」の欄に「紙屑」とあるのですが、中には雑紙として集団回収に出せる紙もあると思います。紙屑はすべて燃やすごみという誤解が生じないような書き方をしていただきたいです。 それと、容器包装プラスチックとその他プラスチックとの区別がやはり一般的には分かりにくいと思うので、ラップだとか、包装でリサイクルのマークが書いていないものはどの区分になるのかをはっきりさせていただきたいです。 日々出てくる一般的なごみをもっと載せていただけると分かりやすいです。
糸井所長	この表 2-2 では、主な例を示しておりますが、なるべく分かりやすい例を載せていきたいと思います。
三木委員	連動して、ごみ分別のパンフレットなども修正していただきたいです。
村山副所長	燃やすごみの中の「紙屑」という表現については、「資源化できない紙屑」というような意味に改めさせていただきます。 容器包装プラスチックとその他プラスチックについては、プラマークの有無が判断基準となりますので、燃やさないごみの品目例では、「プラマークがつ

	いていないプラスチック類」というような表現にしたいと思います。
恵良会長代行	時間も限られておりますので、後ほど気が付いたことがあれば、事務局へご連絡ください。私と事務局で協議させていただきます。
中村委員	<p>まとめのようになってしまうのですが、私が住んでいる地区は 30 年くらい前に他の土地から移り住んできた人たちばかりで、地元の方はほとんどおらず、一からでした。最初のごみを置く所に何も無くて、自治会でそれぞれ話し合いながら進めていきました。最初はカラスが敵で、網をかぶせるようになり、今は折り畳み式のボックスになりました。皆さんきちんと時間に出して、回収が終わったら掃除をしてボックスを畳むのですが、残っているごみはほとんどないです。出し方が分からないごみは、みんなでお互いに聞いています。最初迷ったのはアルミホイルをどの区分で捨てたらいいのかが分かりませんでした。ごみの出し方のパンフレットにアルミホイルは書かれていないので、未だに分からない方がいるのではないのでしょうか。</p> <p>30 年の経過でごみについての認識がすごく高くなったというのが感想です。一人一人の意識の問題で随分変わると思います。</p>
佐々木副所長	長年住んでいる方が多い地域は意識が高いと感じます。一方、出入りが激しく、1 年で移動してしまう地域もあり、そのような地域ではごみの意識は高くないと感じます。行政としては、ごみの出し方のパンフレットを配布するなどして、呼びかけていきます。
恵良会長代行	<p>答申案について、ほかに何かございますか。</p> <p>これでよろしければ、7 月 25 日に市長への答申を行います。答申への出席を希望される方は 7 月 13 日までに事務局にご連絡ください。</p>
糸井所長	今、話が出ましたが、市長への答申は 7 月 25 日の午前 9 時からの予定です。会長代行の恵良副会長から市長へ答申を手交していただきますが、その後、市長との若干の懇談を予定しております。
恵良会長代行	そのほか、何もないければ、本日の審議会はこれで終了といたします。
田中部長	～挨拶～
金子副所長	以上で審議会を終了といたします。本日は、ありがとうございました。
閉会 15 : 20	